

研究報告会 2019年秋 第46回

挨拶

運輸総合研究所所長の山内でございます。

一言ご挨拶を申し上げます。本日は大変お忙しい中、研究報告会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

私からは、本日の研究報告会の講演・発表の概要を報告させていただきます。

最初は、「国際海運のグリーン化施策の検討ー環境性能に基づいた入港料割引の受容性についてー」です。

最近、当研究所では、比較的海運・物流分野の研究が少ない傾向にありました。よって、今後はこれらの分野にも力を入れていきたいと考えており、本研究はその一環です。

国際海運の温室効果ガス排出量を削減する施策が国際海事機関で議論される中、本研究は、船舶の環境性能に基づいた入港料割引施策に着目します。途上国政府や港湾管理者としての地方自治体等の入港料割引施策の導入を受け入れることができるか否かについて調査し、政策インプリケーションを引き出すことを目的としています。

次の2つは、観光に関する研究ですが、これらは、言わば、観光を取り巻く負の側面に注目したものです。

まずは、「訪日外国人における観光危機管理の向上」です。

インバウンド観光客数の急速的な増加が続く一方、我が国は毎年のように、地震や風水害に見舞われ、訪日外国人に対する情報提供の改善は急務です。本研究では、情報提供の現況、外国人旅行客の避難行動の傾向等を明らかにし、観光危機管理の向上に資する政策提言を行います。

次に、「オーバーツーリズム：現状と政策展開の国際比較」です。

オーバーツーリズムは、観光客の満足度、地域の生活の質や環境にマイナスの影響を与え、世界的に注目された問題となっています。本研究では、オーバーツーリズムの問題構造を示すとともに、それに基づき、世界28都市でのオーバーツーリズムの現状と政策展開との関係性を分析します。

その後、熊本県立大学理事長で前政策研究大学院大学学長の白石隆（しらいし たかし）先生に『米中「新冷戦」とアジア』というタイトルでご講演いただき、その後、政策研究大学院大学政策研究センター所長の森地 茂（もりち し

げる) 先生との間で対談をしていただきます。

最後の2つも、アジア関係の研究です。

現在、当研究所では、先程ご登壇いただいた森地先生等のご指導・ご協力をいただき、アジアにおける都市鉄道事業に関する調査研究を行っているところです。

本日は、「アジア大都市における都市鉄道事業へのPPP導入の課題」というタイトルで発表します。内容は次のとおりです。

アジア大都市では都市問題解決のため、鉄道整備を進めています。その際、現地国政府は、PPP (Public Private Partnership) 方式を採用する傾向にあります。しかし、官民の役割分担が十分機能しなかった例が多いため、本研究では、アジア大都市における都市鉄道事業の特徴の違いを明らかにし、都市鉄道事業にPPPを導入する場合の課題を明らかにします。

最後は、「開発利益還元の事例と持続可能な都市鉄道経営への課題—ASEAN・インドにおける鉄道整備と沿線開発における検討—」です。

ASEAN・インドの大都市において、鉄道整備を進め

るためには、併せて沿線開発が必要です。そこで、運輸総合研究所では、今年度から、森地先生を委員長とする「鉄道整備と沿線開発に関する研究会」を主催し、検討を進めています。本日は、沿線開発による利益還元方策に関する国内外の事例を紹介するとともに、特にASEANにおいて持続可能な都市鉄道経営を構築するための様々な課題についての検討結果をご報告します。

長時間ではございますが、お時間の許す限りご参加いただければ幸いです。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。